

## 2019年度幼稚園教育課程研究協議会 第1分科会 協議概要

発表者	富山市立水橋幼稚園	水間 雅美
記録者	富山市立新保なかよし認定こども園	水岡 巴絵
	砺波市立南部認定こども園	田辺美由希

### 1 伝達講習の概要

#### (1) 幼稚園教育要領総則改正の要点

- ① 幼稚園教育の基本
- ② 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- ③ 教育課程の役割と編成等
- ④ 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価
- ⑤ 特別な配慮を必要とする幼児への指導

#### (2) ねらい及び内容の改善・充実

#### (3) 教育課程に係る教育時間終了後等に行う教育活動等

#### (4) 体力向上マネジメント

- ① 体力の捉え方
- ② 幼児期における身体活動の現状
- ③ 幼児期における運動の意義
- ④ 幼児期の運動の在り方
- ⑤ 体力向上マネジメントの推進

### 2 研究発表の概要

#### (1) 分科会協議主題

カリキュラム・マネジメントの適切な実施について

#### (2) 研究の視点

- ① 幼児が友達や異年齢児と関わりながら、友達や自分のよさに気付き、互いに認め合えるようになるための教師の援助や環境の構成について探る。
- ② 教師間で幼児理解を深めるためには、どのような記録の工夫が必要かを探る。

#### (3) 実践より明らかになったこと

- ・異年齢交流では、教師は幼児の内面を探り、思いを受け止めることが大切である。幼児の実態に  
応じて、同年齢での遊びや活動の時間、場所を十分に確保することも必要である。
- ・教師が、友達のよさに気付いている幼児の気持ちを受け止め、言葉を補って表現したり他の幼児  
に広めたりすることで、今後の互いを認め合う姿につながる。
- ・教師が幼児の遊びや生活の中での気付きを記録し、教師間で共有・考察することで、幼児の内面  
の思いや成長に気付き、手立ての改善につながる。
- ・幼稚園教育要領を基に5領域の視点から記録をし、援助や環境構成の改善を繰り返すことが、幼  
児の育ちへの具体的な手立てとなる。教師は、自分の保育を振り返り、次の活動のねらいや幼児  
一人一人への援助につなげていくことが大切である。

#### (4) 今後の課題

- ・幼児が興味・関心をもった遊びから異年齢児とも関われるように、教師間で連携を図りながら遊  
びや生活の場を戸外にも設定していきたい。
- ・幼児の姿と遊びのねらいや指導計画を擦り合わせ、教師間で共通理解を図りながら保育を行うこ  
と、PDCAサイクルに基づいて指導の改善を意識することについて、今後も継続して取り組ん  
でいきたい。

### 3 協議の概要

#### (1) 質疑応答

Q：写真や付箋を利用して保育を反省、評価、改善する中で、工夫したことは何か。

A：臨時職員にも記入してもらうことにより、担任が気付かなかった幼児の姿や関わりについて知ることができ、幼児理解につなげることができた。

Q：月週案の5領域の色分けは、立案時か、立案後か。

A：月週案は立案時に5領域に分け、月のねらいや活動を考える。週のねらいは月のねらいのどこに位置付いているのかを明確にする。記録は週のねらいに対して記入している。個人記録はその幼児の月のねらいを意識しながら記入し、その後5領域に分けている。

Q：教師間の話し合いについて、どのような工夫をしているのか。

A：月初めに月週案を持ち寄り、全教師で幼児の成長や興味・関心は何かを話し合う。月週案の記録や個人記録は、記入後回覧し、全教師が見ることができるようにする。毎週末に月週案の記録から、幼児の成長に加え、遊びや活動の共通理解を図る。

#### (2) 協議内容

- ・記録や写真等を使い、保育を可視化して振り返ることが効果的である。5領域に分け記入することで幼児の実態が捉えやすくなる。
- ・記録は園長を含め全教師で回覧し、情報を共有することで、その後の連携が円滑になる。
- ・園の規模により、教師間の話し合いの時間の確保が難しく、各園における工夫が必要である。

### 4 指導助言事項 東部教育事務所 藤井 昭彦 指導主事

一人一人のよさが生きるような保育計画作成に向け、環境構成や教師の指導の工夫について、5領域のねらいを意識したPDCAサイクルに基づいて改善していくことが大切である。日常の遊びや記録から見えてきた幼児の実態を教師間で話し合いながら様々な改善を図り、次の活動に生かすことが、幼児の発達に応じた適切な指導につながる。

#### 視点①について

- ・少人数の園であることを生かし、意図的に異年齢の幼児と一緒に活動する時間と場所を設定するとともに、5歳児が積極的に活動する姿が少ないという実態を踏まえ、5歳児が活躍できる場を用意することは、自信をもって活動する姿につながる有効な手立てである。
- ・教師が意図的に友達のよさを紹介したり、一人一人のよさが明らかになるような活動を仕組んだりすることで、幼児は思いや考えを出し合いながら、自分に合った遊びを進めることができる。

#### 視点②について

- ・話し合いや記録による振り返りが蓄積されることで、幼児の実態や改善への有効な手立てが見えてくる。また、5領域の視点から育ちが見えるように月週案を色分けし、振り返りを行うことで、バランスよく幼児の育ちを支えることができる。月案、週案、個人記録から5歳児に足りない育ちや一人一人の特徴、活動への意欲を把握し、次の活動に生かすことが大切である。
- ・写真を通じた幼児理解や掲示による情報発信は、幼児の表情や場の様子がよく分かり、効果的である。
- ・今回は、幼児の実態把握を基に、5領域の「人間関係」と「言葉」についての育ちが多く見られる実践となった。引き続き他の領域での子供の育ちが見られるような活動も計画し、幼児の姿を見取っていくことで、育ちを確かなものとし、発達に応じた適切な指導につなげていくことができる。